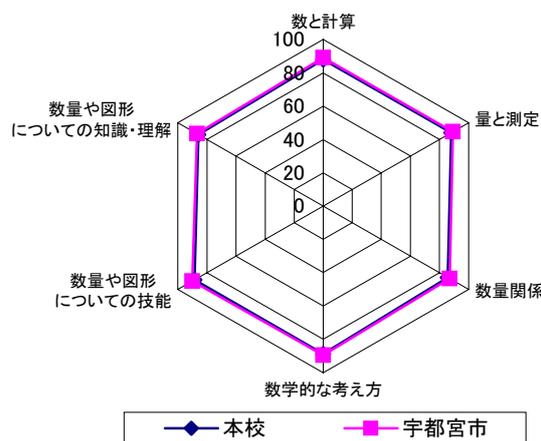


# 宇都宮市立宝木小学校第3学年【算数】領域別／観点別正答率

## ★本年度の宇都宮市と本校の状況

|     |                 | 本年度  |      |
|-----|-----------------|------|------|
|     |                 | 本校   | 宇都宮市 |
| 領域別 | 数と計算            | 87.9 | 89.2 |
|     | 量と測定            | 88.0 | 89.0 |
|     | 数量関係            | 85.5 | 87.0 |
| 観点別 | 数学的な考え方         | 88.7 | 89.4 |
|     | 数量や図形についての技能    | 88.5 | 90.0 |
|     | 数量や図形についての知識・理解 | 85.8 | 86.7 |



## ★指導の工夫と改善

| 領域              | 本年度の状況  | 今後の指導の重点  |
|-----------------|---|---|
| 数と計算<br>(87.9%) | たし算・ひき算の筆算は、市よりも0.5ポイント下回っているが、ほぼ定着してきている。かけ算の筆算は、市よりも2.6ポイント上回った。一方で、10000より大きい数の問題では、6割程度の正答率であり、市と比較しても5ポイント近く下回っている。また、分数の意味とあらわし方の定着が十分ではなく、市の平均を下回っている。 | これまで学習してきた、たし算やひき算の解き方を使って、「4ケタ-4ケタの繰り下がりがりあり」の筆算をできるように反復練習する。10000より大きい数では、位取り板に数を書き込ませ、一・十・百・千のまとまりの4桁ごとに区切ったり、唱えたりするなどして位を意識させるようにする。   |
| 量と測定<br>(88.0%) | 長さの単位の問題と重さの定着度が市と比べて3ポイント高い。しかし、時刻と時間の問題の正答率が市よりも8ポイント下回っている。道のりの問題については、市の正答率とほぼ同じ結果となった。   | 時刻と時間では、日常の生活場面をもとに、2学年で学習したことを使いながら習熟を図っていく。時間は目に見えない量であるので、時間の経過量を数直線に表すなどして具体的にとらえさせていく。例えば、ある時刻から45分前の時刻を求める場合などに、時刻を表す目盛りから逆向きに量に変化することを説明し、時計の針を指し示しながら、1時間戻して15分進めるというように簡単な時間に分解して考えさせていくようにする。 |
| 数量関係<br>(85.5%) | □を使った式と図では、市の正答率とほぼ同じ結果となった。しかし、□を求めるのに、除法を乗法としてしまう間違いが多く見られた。また、棒グラフの問題では、市の正答率と比べ、3ポイント下回っているが、ほぼ定着してきていると考えられる。  | 問題場面を式や図に表すことは、1学年から段階的に理解を深めてきている。加法と減法、乗法と除法の相互関係についても、式と図を関連付けてとらえられるように指導していく。数量の関係を表す式について理解を深め、図に表すことよさに気付かせたい。   |
|                 |   |   |
|                 |   |   |